



点検していますか？ 『住宅用火災警報器』

義務化から10年が経過しています
もう一度確認しましょう



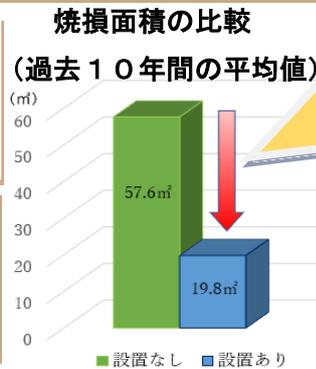
住宅用火災警報器を設置した後は、定期的に点検を実施し、10年を目安に交換しましょう！古くなった住宅用火災警報器は、電子部品の劣化や電池切れなどで正常に火災を感知しなくなることがあります。



こんなにすごい！！住宅用火災警報器！ 実際にあった奏功事例をご紹介します！

★就寝中、たばこの不始末で出火したが、住宅用火災警報器の音で目が覚め、避難することが出来た。

★家族5名が在宅中に1階寝室から出火し、家族全員が住宅用火災警報器の警報音に気が付き、水バケツにて消火し、「ぼや」で済んだ。



住宅用火災警報器を設置している場合は、設置していない場合に比べ、

焼損面積が $\frac{2}{3}$ 減少！

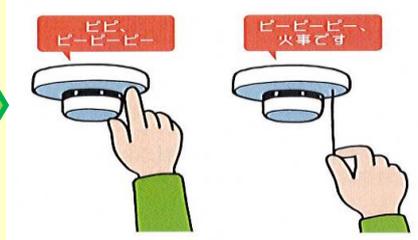
◆設置後の点検や維持管理

点検 1 定期的に 作動点検をしましょう

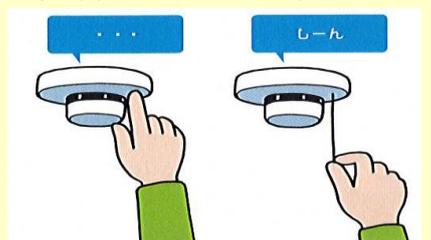
本体から下がっている引きひもを引く、あるいはボタンを押すなどにより、定期的に作動点検をしましょう。



◆正常な場合は？
正常を知らせるメッセージまたは、警報音が鳴ります。



◆音が鳴らない場合は？
電池がきちんとセットされているか、確認してください。



※警報音は、メーカーや製品によって異なります。

点検 2 住宅用火災警報器が よごれていたら

ホコリなどがつくと、火災を感知しにくくなります。
定期的に乾いた布でふき取りましょう。



◆汚れた時のお手入れの仕方
ベンジンやシンナーなどの有機溶剤の使用や、水洗いは絶対にしないでください。

点検 3 電池交換を忘れずに

電池が切れそうになった時、音や光で知らせてくれる機能を有しています。
忘れず、電池交換を行いましょ。

※電池寿命は、メーカーや機種によって異なります。なお、最新機種のお多くは、電池寿命10年(通常の使用状態)です。また、本体も、センサー等の寿命により交換が必要になる場合があります。
詳しくは取扱説明書を確認してください。